

平成 22 年度 第 2 回 神経・筋疾患ケアセミナー
「呼吸リハビリテーション」研修について

東 2 病棟看護師長 繁浦 洋子

第 2 回神経・筋ケアセミナーを 11 月 13 日（土曜）9:30～12:30 に開催した。今回のテーマは「呼吸リハビリテーション」で、当院と連携していただいている病院・診療所・施設等の 38 名の皆様のご参加をいただきました。

以下に研修目的・目標とともにご参加いただきました方々の状況と研修内容を報告します。

目 的：神経・筋疾患患者の在宅ケアにかかわるスタッフの呼吸リハビリテーション
における知識技術の向上を図る。

目 標：神経筋疾患における呼吸リハビリテーションの必要性を理解し、実際に学ぶ。

参加者の職種：看護師・訪問看護師・保健師・理学療法士・作業療法士・介護職・ケアマネージャー・家族

研修内容：

1、講義

1) 当院神経内科井上喜美子医師より「神経筋疾患の呼吸理学療法」というテーマで、神経筋疾患になぜリハビリが必要かについて、解剖生理学的に説明された。また、呼吸管理を長期に維持するためのリハビリテーションの目標として、肺・胸郭のコンプライアンスの維持、気道の浄化、換気の正常化について講義を行った。



2) 当院岩田裕美子理学療法士より「神経筋疾患における呼吸理学療法の実践」というテーマで最大期強制吸気量を得る方法（深吸気練習）と排痰法について目的と実際の援助方法について講義を行った。

2、演習

呼吸リハビリテーションの実際の講義内容から以下の内容で実技を行った。

1) 救急蘇生バッグ患者の最大吸気後強制的に連続して 2～3 回吸気させ、息こらえを 5～10 秒行う方法を行った。また、peep 弁付救急蘇生バッグも使用し、蘇生バッグ使用時の注意点を確認した。研修生個々の送気量を実際に計測し、適切な量を安定して加圧できるよう確認した。

2) 排痰介助については呼吸介助方を行い手の当て方・患者の呼吸とのタイミング・体重のかけ方などを行った。また、咳嗽介助も行いでは、患者役の咳嗽に合わせて胸郭を圧迫する方法を演習した。

3) カフアシストは使用目的・効果、器械の説明を行い、その後マスクを使用し手順に沿って実施した。



蘇生バッグの
使い方を学ん
でいます



呼吸の介助（患者
役も介助者も頑張
っています）

3、研修結果：参加者にアンケートを行ない、34名（89%）より回収し結果は以下の通りであった。

- 1) 講義内容については33名（97%）が「理解できた」との回答であった。また「講義の内容が簡潔で解りやすく良かった」との感想が多かった。
- 2) 演習は全員が「良かった」と答え、以下のような意見を得た。
 - ・実際に呼吸リハを行なうので学びになった。
 - ・呼吸介助・咳介助・アンビューの使い方などが勉強になった。
 - ・刀根山病院の患者が訪問看護ステーション利用者に多いので、今回のカフアシストや呼吸リハの研修が非常に有意義であった。
 - ・患者により介助の具合も変わる様子が良くわかった。
 - ・トレーナーからの指導と共に、いろいろな人と一緒に実践でき理解しやすかった。
- 3) 研修成果の活用については「ほぼ活用できる」が24名（71%）、「どちらとも言えない」7名（21%）であった。「カフアシストについては医師の指示が必要であり、医師への働きかけが大切」との意見もあった。
- 4) 研修全体の構成は「演習時間が多く勉強になった」「講義後に実習がありよく理解できた」と好評であった。



カフアシスト
について説明
しています

次回は平成23年3月5日（土）でテーマは「コミュニケーション・心理支援」を予定しています。